

東京湾のヒガンフグ好調 良型ぞろいで重量感抜群

1月7日、ヒガンフグを狙って出船している東京湾奥浦安の吉久を訪れた。同宿では東京湾のフグ釣り、いわゆる「湾フグ」で周年出船しており、釣れるのはショウサイフグが主体だが、秋冬はヒガンフグ、近年は春のトラフグも狙っている。

大澤船長にあいさつして近況をうかがうと、釣り場は東京湾一帯の水深5〜20メートル

ル前後で、護岸の際など根周りを狙っていて、20〜35センチ前後のヒガンフグが頭10尾前後とのこと。1月2日の初出船から安定して釣れているそうなので今日も十分期待できそうだ。

小型ながら出足好調

当日は新年最初の連休とあって初釣りを楽しみにきたフグファンが大勢集まった。



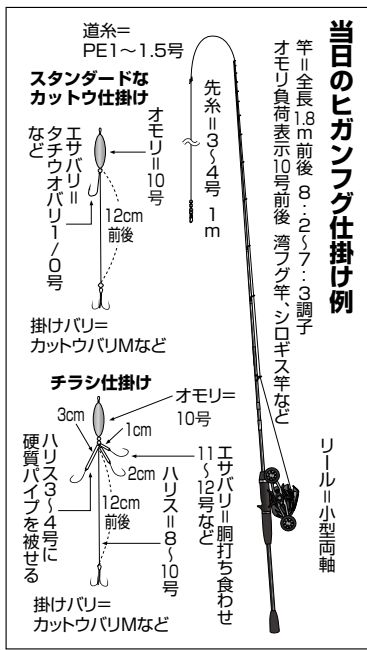
▲東京湾のヒガンフグは2月も期待大

良型が次つぎ上がる

左舷に移動すると、左トモの2番の山田さんと左トモの金田さんが数をのぼしている。二人は前日も一緒に釣行していて、それぞれ4尾と釣り足りなかつたので、今日も再挑戦とのこと。

アタリを見逃さないという気迫伝わる真剣さで竿先を見つめる山田さん。すると、小さなアタリをとらえてキュッと合わせを入れた。青物のようにギョングン走り回って上がってきたのは35センチ級のヒガンフグ。

「掛かった瞬間の重量感がたまらないです。このサイズが釣れるとうれしいですね、これで4尾目で昨日の釣果に並びました。今日はフグの活性が高そうだからまだ釣れそう



当日のヒガンフグ仕掛け例

竿全長1.8m前後 8.2〜7.3調子
オモリ負荷表示10号前後 湾フグ竿、シロギス竿など

リール小型両軸



▲アタリを取るため穂先から目が離せない

●Tackle Guide
仕掛けはスタンダードなカットウとチラシ仕掛けの2種類。ヒガンフグ釣りは護岸の際など根掛かりの多い場所を攻めることから、吉久ではチラシ仕掛けを推奨。オモリは10号、道糸はPE1〜1.5号をすすめている。



▲30センチ級になると引きも強い

と笑顔で話す山田さん。その隣でチラシ仕掛けを軽く前方に投げ入れてゼロテンション状態で待つ金田さんも30センチ級を釣り上げて4尾と並ぶ。左ミヨシ3番の方が当日最大38センチを釣り上げて船上が盛り上がる中、その隣の左ミヨシ4番の鈴木萌さんが待望の1尾目を釣り上げた。鈴木さんは二日前にも釣行しており7尾で竿頭だったという。「ようやくフグを釣ることができてうれしいです。フグ釣り楽しいです!」とニコニコの鈴木さん。

「掛かった瞬間の重量感がたまらないです。このサイズが釣れるとうれしいですね、これで4尾目で昨日の釣果に並びました。今日はフグの活性が高そうだからまだ釣れそう狙っていく。」

朝イチのような頻繁なアタリはないものの、諦めずに誘い続けていた左トモ3番の奥


すると早くも岸壁に近い右舷でアタリがあったらしく、右ミヨシ3番の方が25センチ級のヒガンフグを取り込んだ。続いて左ミヨシ5番の女性も同サイズを釣り上げる。

その後はクサフグの猛攻にあり、水深10メートル前後のポイントへ移動となる。ここはフグの群れは濃いようで、船全体でアタリがあり、20センチ前後のヒガンフグが次つぎと取り込まれる。時には3名同時にヒットする一幕もあった。ちなみに同宿では20センチ未満はリリースで釣果にはカウントされないものの、アタリが頻繁にあるので、皆さんアタリを見て掛けるフグ釣りのだいたい味を堪能している。

日が高くなるとアタリが遠くなり小移動。水深15メートルの岸壁際を狙う。このポイントは良型がそろっているようで、右舷の間の二人がそろって30〜35センチ級のヒガンフグを釣り上げると、右トモ4番の方が30センチ級と続く。

田さんが立て続けに30センチ級のヒガンフグを取り込む。前半は軽く投げて船下まで探ってくる山田さんと金田さんがよく釣れていたのに対し、後半は船下狙いに徹した奥田さんが数をのぼしていった。やがて奥田さんが二人の釣果を追い抜き9尾を数えたところで14時の沖揚がり。釣果は20〜38センチのヒガンフグがトップ9尾。山田さんと金田さんは仲よく6尾。前日と合わせて10尾とお土産には十分な釣果を得たようだ。水温下がっている今はヒガンフグの群れが釣り場に固まっているから、今後も良型交じりで数も期待できるという。ヒガンフグを楽しむなら今がチャンス!


●船宿information
東京湾奥浦安
吉久
☎047-351-2983
(詳細は巻末の情報欄参照)



大澤 正幸船長

▶料金=フグ乗合一人9500円、エサ1パック500円
▶備考=予約乗合、7時出船。ほかタチウオ、ライトアジ、カワハギへも出船

知得! Tips and Tricks
掛かりにくくなったら
ハリ先をチェック!



▲ハリ先を爪に当てる
▲ハリ先を研いで鋭くする

アタリを取って合わせて掛けるのが湾フグのたいご味。しかしこの釣りはタイミングよく合わせてもハリ掛かりしないことがしばしば。そんなときはカットウバリのハリ先をチェックしてみよう。ハリ先を親指の爪に当ててみて引っ掛かりがないようであればハリ先が甘くなっている。シャープナーでハリ先を鋭く研いでから再び親指の爪に当て、引っ掛かるようになればOK。釣行時はシャープナーを持参しよう。



▲船宿でふぐ処理師の免許を持つ船長がさばいた身欠きを持たせてくれる